

代謝的に健康な肥満でも心臓血管病のリスク高く

糖尿病、高血圧、高コレステロール血症のない「代謝的に健康」であることが心臓血管病リスクに関連するかについてはよくわかっていない。本研究では、肥満指数（BMI）の区別に代謝的健康とその経時的変化が心臓血管病と関連するかについて検討した。米国の女性看護師を追跡したコホート研究（NHS）に登録した参加者のうち、心臓血管病の既往がなく、低体重でない 90,257 例を 1980 年から 2010 年まで追跡した。試験開始時に BMI 区分（「標準」18.5-24.9、「過体重」25.0-29.9、「肥満」30.0 以上）と代謝的に健康（糖尿病、高血圧、高コレステロール血症がない）かそうでないかによって参加者を分類した。中央値 24 年の追跡期間中に 6,306 例が心臓血管病を発症した。代謝的に健康な肥満女性では、代謝的に健康な標準体重の女性に比べて心臓血管病リスクが上昇した（ハザード比 1.39）。一方、同リスクは不健康な標準体重女性で 2.43、過体重女性で 2.61、肥満女性で 3.15 とより顕著に上昇した。20 年後には、試験開始時に代謝的に健康であった肥満女性の 84%、標準体重女性の 68%が代謝的に不健康の状態となった。追跡期間中に継続して代謝的に健康な肥満であった女性は、継続して代謝的に健康な標準体重を維持した女性に比べ、心臓血管病リスクが 1.5 倍であった（ハザード比 1.57）が、そのリスクは代謝的に健康から不健康に移行した標準体重女性（同 1.90）や肥満女性（同 2.74）よりも低かった。

したがって、長期にわたり代謝的健康が維持された場合であっても、肥満は心臓血管病の危険因子となる。また BMI 区分にかかわらず、代謝的に健康だった女性が長期の間に不健康になり、心臓血管病リスクの増大に関連していた。

出典：Lancet Diabetes and Endocrinology. 2018 May 30. pii: S2213-8587(18)30137-2